

# 子ども患者、県内も急増

## 2幼児 十分な注意呼びかけ 死亡

全国でインフルエンザが原因とみられる死亡者が相次ぐ中、県内でも三日、二歳児と三歳児の死亡が初めて報告された。岐阜市医師会と県小児科医会のまとめでは、一日から成人より子どもの患者数が多くなり、子どもに対する各家庭での十分な注意が必要という。

県医療整備課は「プライ患者、医療機関の公表を控」の男児と三歳の女児のかか「で、二人は家族ではない。ハシーの保護」を理由に、一「二歳児は一月二十八日に

四〇度前後の発熱の症状が出て、翌日入院し、三十一日に死亡した。脳症にまで発展し、呼吸器不全の症状が出ていた。

三歳児も、同二十二日に四〇度近い発熱や吐き気で入院し、七日後に死亡した。やはり脳症にかかり、呼吸器不全に陥っていた。

原因ははっきりしないが、インフルエンザから脳症や肺炎に発展し、死亡する例があるため、厚生省は調査に乗り出し、県も二十

## スリッパ事故246件

雪の影響  
20人けが

県警交通企画課は三日、同日午前零時から午後四時までに雪の影響によるスリッパ事故が二百四十六件発生し、二十人がけがをしたと発表した。

高速道路にも影響が出ており、県警によると、午後七時現在、名神高速道

路は上り線で重  
一―養老サービ  
間、下り線では  
王インター間で  
めチェーン規制  
る。

調査を依頼していた。

二幼児の死亡報告は、この調査の依頼を受けていた医療機関が県に報告したもので、三日に郵送されて県は死亡の事実を確認した。医療整備課の担当者は、「インフルエンザか疑わしい場合は、報告してもらっ

ていなかった。今回の調査を受けて、死亡者の報告がもっと出てくるかもしれない」と話す。

同課は三日、保健所を通じて県内の医療機関に、亡くなった二幼児の症状などを情報提供するといった対応を取ったが、担当者は

「外出をするなどいえないし、対策といっても……」と困った様子だった。

一方、岐阜市医師会、県小児科医会が今年からインターネットで配信している「インフルエンザ様疾患情報」によると、子どもの患者が増え続けている、一日

から大人より子どもが多くなって、分かった。

二日の患者数、五歳以下が三百成人(十六―六十百五十五人を数、に対する一層の注